



◆Topic◆ 増える公立大学に注目してみては？

最近新たな公立大（県や市町村が設立した大学）の設置が進み、その数が年を追うごとに増えています。平成23年度から28年度までの間に81→88校へ7校も増加しました。さらに隣県の長野県では29年度に**長野大学**、30年度に**長野県立大学**、31年度に**諏訪東京理科大学**が相次いで設置、石川県では**公立小松大学**が設置される予定（平成30年度）です。いずれも新たに大学ができるのではなく、現在ある私立大学・短大が公立化、または公立の短大などが4大に格上げされ、いわゆる国公立大の仲間入りをはたすものです。既存の大学等が公立大学になった例は下記のようにたくさんあります。

- ・山陽小野田市立山口東京理科大学（私立：山口東京理科大学から）
 - ・福地山公立大学（私立：成美大学から）
 - ・高知工科大学（公設民営から）
 - ・敦賀市立看護大学（市立専門学校から）
 - ・宮城大学（宮城県農業短大から） など
 - ・鳥取環境大学（公設民営から）
 - ・公立はこだて未来大学（公設民営から）
 - ・名城大学（公設民営から）
- 〔※公設民営とは、市町村などが大学をつくり民間で経営すること〕

受験する側としては次のようなメリットが考えられます。

- ①私立大学に比べると学費が安い（国立大に近い学費）
- ②都市部でなく地方にあるケースが多く、地域活性化など地域密着型の学びができる。そのため将来多治見へ戻って就職したい人は、その強みを生かせる。
- ③多くが小規模な大学でアットホームな雰囲気である。そのため先生や職員との距離感が近く、丁寧に面倒を見てもらえることが多い。
- ④最近公立化されたところは、公立化に伴い教授陣を充実させている。さらにそれに伴い学生の質が向上している。
- ⑤新設間もないところは、新しい大学を創るという意気込みがあり、活気がある。
- ⑥受験教科は、国立より少なめな場合が多い。

世間一般には知名度が低くても、企業などでは評価されている場合も多く、下調べをしっかりとすると意外な掘り出し物が見つかるかもしれません。「公立」に注目して大学探しをしてみるのはいかがでしょうか？

（文責：岡崎）

『3年の窓』 センター試験、卒業あと残りわずか

先月（11月17日）の、3年生進路説明会（出願先）はどうだったでしょうか、調査書の発行願、願書の取り寄せ、出願までの日程など色々ありましたね。色々なパターンがあるので、自分の進路を考えながら解らないことは、周りの人に必ず相談をしながら進めて聞くことが大切だと思います。完璧に準備したつもりでも、必ずミスがあると考えながら進めないと致命的なミスにつながります。センター試験まであと1ヶ月あまり、後悔が残らない過ごし方をして欲しいと思います。やるべきことはしっかりと勉強をしておきましょう。家族の方も大変だと思いますが頑張ってください。

受験生であると同時に、卒業も控えています。いい加減な身だしなみ、普段の授業をいい加減な受け方をしていれば、絶対、受験もうまくいくはずがありません。人生全てをいい加減にしていくような気がします。自分で自覚をしてしていかなければいけないと思います。1年生、2年生の模範となるような過ごし方を、残り卒業するまで頑張ってお過ごししてほしいと思います。（文責：糸魚川）

『2年の窓』 「どのように取り組むか」

考查を控えているとき、なかなか成績が伸びないとき、そんな場面でよく聞かれる質問です。

「この問題集をやっておけば大丈夫ですか？」

「点とるためにいい参考書を教えて下さい！」

1回やっただけで点が取れるようになる参考書や問題集があればさぞかし素敵ですよ。そんなものがあつたら何て勉強は楽なことでしょうか。しかしそんなものは存在しません。大事なのは繰り返しやることです。1回目を通してその場しのぎの記憶ぐらひは作れるかもしれませんが、しかしそれでは模試や、さらに受験本番ではさっぱり点が取れず、

「え、こんなはずじゃ…」

なんて思ってしまうでしょう。1つの問題集を、複数回取り組みましたか？すぐわかる問題と、何度やっても間違ってしまう問題をきちんと区別できていますか？もう完璧、といえる問題を何度もやって、理解できていない問題に十分な時間が割けない、そんな時間の使い方では勿体ないです。1つの問題集や参考書に繰り返し取り組み、自分が何をやらなければいけないかを知って取り組む。それが本当に効率の良い学習方法です。 (文責：安藤)

『1年の窓』 文系よりも理系が就職に有利なのか？

今年も残りわずかになりました。高校では3月の初めに期末考查を行うので、今年度の授業は2月末までのたった2カ月程しかありません。時間が経つのは早いものです。

さて、まもなく2度目の三者懇談が始まります。今回の懇談では、高校生の皆さんが将来の進路を考える上での最初の分岐点「文理選択」を確定させます。しっかりと選択の方はできていますか。時々「文系よりも理系の方が就職に有利ですか？」という質問を受けます。以下でそれに答えます。

大学を卒業してすぐの就職率は文系学部の方が高くなりますが、大学院進学後も含めた就職率は理系学部の方が高くなります。理系学部の多くは、就職に直結する資格を得られるのが理由の一つでしょう。しかし、どこでも就職できればよいのではなく、自分の学びたいことを学び、就きたい職業に就職することが一番大切です。就職率より、学びたい内容を重視して文理選択を確定させましょう。 (文責：立田)

